

林づくり

「木の文化」の象徴でもある伝統的木造建造物を将来にわたって維持・

継承していくため、必要な資材を安定的に供給していけるよう、森林づくり活動を推進することと

国指定重要有形民族文化財の年間約三〇万人の観光客が訪れる「祖谷のかずら橋」(国指定重要有形民俗文化財)と東祖谷の奥祖谷二重かずら橋(男橋、女橋)は、三

た。平成二七年度は、奥祖谷二重かずら橋の女橋の架け替えが予定されています。

しかしながら、シラクチカズラは年々確保が難しくなってきたため、高知県の国有林からの供給も検討するとともに、

近在の国有林から安定的に供給できるように、祖



地元中学生によるシラクチカズラの挿し木

谷の実行委員会と徳島森林管理署との間で結ばれた協定を基に、森林整備等の取組を行います。

また、伝統的木造建造物の修理、修復に必要な大径長尺材等を将来的に確保するため、一般公募による森林づくり活動を実施します。

② 森林・林業への理解に向けた取組

国民の皆様への情報発信、森林環境教育等を通じて国民の皆様がより深く森林・林業を理解していただくよう努めています。

・森林ふれあいツアーの実施
「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産の歴史を訪ねる

森林鉄道遺産(馬路村馬路)



れた団体を表彰します。

・森林環境教育の実施
国有林のフィールドを活用した森林教室や木工教室等の森林環境教育を、学校や地域関係者等と連携して実施します。また、教職員を対象とした森林環境教育の研修会も実施します。

ツアー」や「保護林観察ツアー」を秋季に実施します。

・「四国山の日賞」の募集及び表彰の実施

四国の森づくりに向け、森林整備、木材利用、森林環境教育等に積極的に取り組む団体、企業等を対象とした「四国山の日賞」を募集し、選考さ



保護林観察ツアー
(土佐清水市佐田山国有林)

各地のたより



四月二四日、徳島市立昭

和児童館と連携し、児童
一二人を対象とした森林教
室を実施しました。

はじめに、当署の業務内
容や取組について説明を
行った後、紙芝居を行い、
木を育てることや、荒れた
谷を治すことなど森林管理
署の仕事について、併せて、
私たち人間が山で手入れを
行うことで、豊かな森林が
守られていくことも学んで

い、自然の不思議や魅力に
ついて身近に感じてもらい
ました。

その後、木育の一環とし

て当署が行っている木工製
作（写真立て作り）を行い
ました。道具を取り扱う際
の注意事項の説明を行った
後、早速、児童たちは、ど

に終了しました。

昭和児童館は昨年一月に
開設された、新しい児童館
ですが、これまでに実施し
た児童館の職員の方に紹介
されたことがきっかけだそ
うです。今回は、当署の取
組が広がりつつあること
を、再確認できた森林教室
となりました。大人世代の
方々に取組を知ってもら
い、子供たちに森林や環境
に関心を持ってもらえる森
林環境教育となるよう、今
後も普及に向けた取組を継
続していきます。



香川県中部、丸亀市と坂

出市の平野部にまたがって
そびえる飯野山（一合目以
上が国有林）は、その美し
いおむすび形から讃岐富士
として広く親しまれ、年間
四七、〇〇〇人もの登山者
を集めています。両市の観
光協会では飯野山の標高
四二二mにあわせた四月
二二日を「讃岐富士の日」
と定め、平成二二年から毎
年「里山まつり」を開催し
ています。



森林教室の様子

んぐりなどの木の
実や小枝等を手に
取り、ポンドで固
定していきます。
また、のこぎり体
験をさせてほしい
との依頼があった
ことから、希望す
る児童と職員が一
緒になってサクラ
の枝を切りまし
た。にこにこ笑

本年も、登山口のある丸
亀市野外活動センターで、

午前九時からおよそ二五〇人の登山者を前に「山開き式」が開催されました。県、丸亀市長、坂出市長らとともに当事務所長も列席

した。「来年から八月一日が山の日として国民の祝日に制定されました。飯野山は国有林として昔から大切に自然が守られてきた日本人の原風景。今シーズンの飯野山登山の安全と賑わいを心から祈念します。」とあいさつを行いました。

参加者は、僧侶の法螺貝ほらがいによる安全祈願のあと登山を開始。讃岐富士を一周するようにつけられた登山道は傾斜もゆるやかなうえ、新緑や小鳥のさえずりの中、瀬戸内海や豊かな

田園風景、ため池など眼下に広がる美しい風景を楽しみながら、それぞれ自分のペースで頂上を目指しました。薬師堂がある頂上では、護摩祈祷や餅まきも行われ、好天に恵まれたこの日は、一〇〇人も人が里山歩きを満喫しました。

四月二四日、当署管内の滑床山で山開きが行われました。滑床山は足摺宇和海国立公園の指定地域に含まれており、宇和島伊達藩、土佐藩、伊予吉田藩の三藩の境界として杭が立てられていたため、三本杭との呼び名で地域の人々やアウトドア愛好家にも親しまれています。

当日、午前の神事では、当署、四万十川森林ふれあい推進センターをはじめ、環境省土佐清水自然保護官事務所、愛媛県南予地方



局、松野町長、松野町町議、松野町消防署、愛媛県警目黒派出所、滑床を守る会、松野南小学校の児童など様々な方々が出席し、厳かに神事が執り行われ、自然保護と利用者の安全を祈りました。



午後からは、松野南小学校の児童に森林ふれあい推進センターと合同で森林教室を行い、木の働きと間伐を行って森を健やかに育てることで環境を守る仕組みや、森の働きについて説明をしました。また、子ども日にちなんで間伐を使って、鯉のぼりの浮き彫り



飯野山山開き



松野南小学校の児童の皆様と

を作製しました。

その後、森林管理署での木の測定方法を説明し高学年の児童には三角比を用いて木の高さを求め、直径から木の材積の求め方とその必要性を説明しました。

今回の取り組みが子ども達にとって森林や木材を身近に感じることができるとい機会になってほしいと思います。



当署では、今年度も地域連携推進等対策として、森林保護員 (GSS) 二名を五月一日より雇用しました。

登山者への注意事項の説明
(手前が森林保護員)



の様々な標識類の保全整備及び損傷の程度の把握等、

②樹木の盗伐、植物の盗採等の違反の把握及び注意喚起、③林野火災や土砂流出等の森林被害の早期発見及び被害状況の把握、④区域内の林道、歩道及び工作物等

今年度についても、登山者や入込者の安全を第一に考えた標識類の整備等を進めた。

往還道とは、古くからの生活道のことで、昭和初期までは毎年、年に三〜四回各家から夫役 (ぶやく) で道の整備や刈り払いなどが行われ、常に駄賃馬 (お金の取って荷物を運ぶ馬) が通れる道幅が確保され、人や物資、情報、文化などあらゆるものが行き来した道のことで。



今回の調査は、当署管内の大正、下津井、窪川、中津川の四つの区域に跨がる広大な国有林の中を通るこの古道を踏査し、忘れられつつあるルートを記録に残すことを目的に行われました。

森林保護員の業務は、石鎚山系の入込利用者の多い①成就社〜石鎚山②岩黒山〜土小屋③瓶ヶ森④面河溪谷の4つの巡視ルートを設定し、林野巡視を行います。具体的活動としては、①山火事防止、自然保護等にわたっています。

このたび、高知県四万十町中津川の地域住民で組織する「奥四万十元気プロジェクト」のメンバーにより大正中津川と窪川折合を

藩政時代、土佐藩の山回り役人がこの地域を巡回する際に、中津川と折合の間地点で羽織袴に正装した地下役人や山番が、弁当や

ですが、それまでの何百年という長い間、地域の生活に根ざし、人や物、情報、文化・・・あらゆるものが行き還りしていた往還道。

わらじを用意し、お茶を沸かして引き継ぎを待ったという「茶沸かし駄場」、奉公人の娘が山犬(狼)に襲われて命を落とし、その霊を慰めるために祠が祀られている「おひその森」など、往還道の長い歴史を偲ばせる様々な場所を確認することができました。

当署では、こうした往還道に関する地域の活動に関して、これからも管内の案内をするなどのお手伝いをしていきたいと思えます。

車道が開通してから一〇〇年足らず、その開通とともに使われることが少なくなってしまう、現在では鬱蒼とした樹木に覆われた

古道になってしまった古道

山道になってしまった古道



おひその森



五月一日、高知県内各地から約三〇名が参加者し、四万十町観光協会が主催する毎年恒例の松葉川山トレッキングが行われ、柔らかな新緑の森歩きを楽しみました。

この日は「シャクナゲの森」と呼ばれる群生地までの往復約四kmの歩道を、植物を観察し、野鳥のさえずりを聞きながらゆつくり歩きました。

対する理解や恵みを感じることもできた初夏の森歩きとなりました。四万十署では、これからも多くの方が森林とふれあえる機会を積極的に作っていききたいと考えています。

四万十町日野地にある久保谷山風景林にはモミ・ツガやアカガシを主体とした針広混交の天然林が広がっており、登山口となる春分峠から津野町、中土佐町との境界の鈴ヶ森まで、尾根道沿いにはシャクナゲ群生地が点在しています。

今年昨年の裏年(うらどし)にあたり、シャクナゲの花はあまり期待できないと予想していましたが、うれしい誤算で、常緑の森の木陰に色鮮やかなピンクの大輪の花やオンツツジのオレンジ色の花が登山道を彩っていました。

参加した方からは「道々に色や風情の違うシャクナゲが咲いていて、すごく良かった」「森の中にとっても気持ちよかった」などの声が聞かれ、森林に



シャクナゲの観察